

八 諸外国との通商問題

1 一般問題

セリ

同案ノ大要左ノ如シ

394 昭和8年2月16日 内田外務大臣より
各省在外公館宛(電報)

外國為替管理法案の議会提出について

本省 2月16日後8時0分発

合第四〇二號

(普通情報)

(欄外記入) 客年七月一日公布ノ資本逃避防止法ハ外國貿易其ノ他ノ正常ナル取引ニハ成ル可ク障害ナカラシムルヲ旨トセル爲資本ノ國外逃避防止ノ徹底及爲替ノ思惑取引排除ニ付尙遺憾ノ點少カラス又極メテ複雜ナル國際經濟關係ノ現状ニ照シ我カ國民經濟ノ利益ヲ擁護スル爲外國爲替ノ取引ヲ更ニ嚴重ニスルノ必要生スルコトモアルヘキヲ以テ政府ハ外國爲替取引ノ全般ニ亘り適當ナル取締ヲ爲シ得ヘキ權限ヲ得置ク爲右防止法ニ代ルヘキ外國爲替管理法案ヲ今議會ニ提出

第一條 政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ左記取引又ハ行爲ヲ禁止又ハ制限スルコトヲ得

一、外國通貨又ハ外國爲替ノ取得又ハ處分

二、通貨、金地金、金ノ合金又ハ金ヲ主タル材料トスル物ノ輸出又ハ金貨幣ノ鑄潰若ハ毀傷(昭和六年十二月十三日及同二十一日大藏省令ノ取締アルモ罰則輕キニ失スルニ付本法ニ依ル罰則ヲ適用セントスルモノナリ)

三、外國ニ對スル送金ニシテ前二號ニ包含スル方法ニ依ラサルモノ

四、外國ニ於テ爲シタル委託ニ基キ本邦内ニ於テ爲ス支拂(主トシテ逆爲替ノ取締)

五、外國爲替相場ノ取極

六、外國通貨ヲ以テ表示スル證券、債權又ハ債務ノ取得又ハ處分

七、信用狀ノ發行又ハ取得
八、外國居住者ニ信用ヲ與フル行爲
九、證券ノ輸出又ハ輸入
十、價額ノ全部又ハ一部ニ付外國爲替ヲ取組マサル貨物ノ輸出

第二條 (資本逃避防止法第二條ニ同シ)

(欄外記入)

大藏省ト協議済

第三條 政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ外國爲替ニ關スル取引ヲ日本銀行其ノ他政府ノ指定スル者ヲ相手方トスル場合ニ限定スルコトヲ得

第四條 (大体ニ於テ資本逃避防止法第三條ニ同シ但シ金地金ヲ加ヘ且ツ所有者自ラ外貨資産及金地金ヲ處分スヘキコトヲモ命シ得)

第五條 (大体資本逃避防止法第四條ト同様)

第六條 (資本逃避防止法第五條ニ同シ)

第七條 (資本逃避防止法第六條ノ全文ノ次ニ左記ヲ加フ)

「本法施行地ニ住所ヲ有スル人又ハ其ノ代理人、使用人其ノ他ノ從業者カ本法施行地外ニ於テ爲シタル行爲ニ付亦同シ」

395 昭和8年3月24日 内田外務大臣より
在仏國長岡大使宛(電報)

仏国における為替下落保障付加税増徴阻止方訓令

本省 3月24日後8時30分発

第六九號

貴電第一五九号ニ閔シ

一二二日佛國大使館參事官通商局長ヲ來訪本件附加税増徴ニ至ルベキ旨ヲ内報シ来レルニ付局長ヨリ客年三月一割五分ノ附加税設定ノ際我方カ佛國政府ニ対シ採リタル措置(客年往電第八八号ノ趣旨)ヲ説明シ今回ノ二割五分ノ附加税ニ付テモ慎重考慮ノ上適當ノ措置ヲ講スルコトアルヘ

キ旨申入レ置キタリ

二、円為替ノ大体安定ヲ見タル今日又他方米国ノ金輸出禁止ノ如キ假令一時的ニモセヨ國際為替ノ前途見透シ難キ矢先円為替カ軟調一方ナリシ過去ノ趨勢ヲ基礎トシ本邦品ニ対シ永久的ニ本税ノ如キ重税ヲ加徵スルコトハ純理的立場ヨリスルモ將又實際的見地ヨリスルモ妥当ナラス

就テハ貴官ハ佛國政府当局ニ對シ客年往電第八八号ノ一二依リ本件課税力日佛條約ニ違反スルモノナルコトヲ申入レラルヽト共ニ(一)円為替ハ客年十一月以降大体安定シ(客年十一月二〇、弗六三、十二月二〇、六五、本年一月二〇、七月二〇、七六)居ルニ不拘國內卸賣物價指數(日本

銀行調査一九一四年一〇〇)ハ客年六月以降漸騰シ(客年六月一、二、四ノモノ本年一月一四七、一)労働賃銀指數(日本銀行調査大正十五年一〇〇)モ亦客年六月以降上向ノ趨勢ニアリ(客年六月八六、八、十二月九二、〇)右ノ次第二テ円為替ノ低落ハ國內通貨ノ膨張ト相俟チ漸次生產費ノ昂騰ヲ招来シ為替低落ノ輸出貿易ニ及ホス效果ハ著シク減殺セラレ居ルコトヲ指摘シ本邦品ニ對シ二割五分ノ附加稅適用廃除ヲ求メラレ已ムヲ得スンバ條約ノ解釈及ビ(一)

加稅適用廃除ヲ求メラレ已ムヲ得スンバ條約ノ解釈及ビ(一)

仏國の為替下落保障付加稅増徵撤回を求める

我が方申入れと仏國側応答振りについて

パリ 4月11日後発
本省 4月12日前着

貴電第六九號ニ關シ

(一)三月三十一日澤田ハ外務省通商局長ヲ往訪シ冒頭貴電ノ趣旨ヲ述ヘ大體其ノ趣旨ヲ記述シタル覺書ヲ手交シ本件附加稅免除方ニ付好意アル考慮ヲ求ムル旨述ヘタル處同局長ハ本件附加稅ハ日本以外ノ為替下落國二十數ヶ國ニ適用セラレ居ルヲ以テ佛國ハ本附加稅ヲ條約違反ト考ヘサルコト及圓下落ノ為生産費昂騰シ為替下落ニ依リ利得ノ「マージン」減少シ居ル點ハ尤モナルカ佛政府ハ通貨下落ヲ始メタル時ノ金ニ依リテ現ハサレタル物價表詳細研究ノ結果右ノ開キハ相當大ナルモノアリ又商工省ヨリハ日本產絹布ハ材料タル生糸ノ値段ヨリモ低キ甚タシキ安値ニテ輸入セラレ居ル事實ヲ指摘シ來リ居リ外務省トシテハ日本ニ二割五分ヲ適用セサル様苦心シ各方面ト折衝シタルモ前記ノ事情ニ

テ之ヲ承認セサルヲ得サリシモノニテ本附加稅免除ハ甚タ

ノ矣ヲ留保シ差當リ(二)客年往電第九七号所掲(イ)染色セサル純綢織物及(ロ)「ペニー」ニ對シ從來通一割五分ノ附加稅ヲ

徴スルコトニ御交渉相成度シ(客年貴電第四九二号ノ品目ニハ変更ナキモノト了解ス)

三、尚冒頭記載佛國參事官ノ覺書ニ依レハ從來附加稅ヲ免力

レ來レル國々ニ對シテモ一律一割五分ヲ賦課スルコトハナリ居リ貴電ニ依レハ僅カニ「セイロン」以下四國ノミヲ追加シ居ル處歐洲南米其ノ他ニ於ケル為替低落國ニハ之ヲ適用セズ右四國丈ケニ限定セルモノナリヤ又加奈陀ニ對シテハ從來通り一割一分ヲ課シ何等變更ナキモノト見テ差支ナキヤ折返シ電報アリ度シ

四、印度支那ニ於テモ本件課說ヲ適用スルニ至ルノ虞アリト思考セラルヽ處本邦ニ於ケル物價騰貴及賃銀昂騰前記ノ通ナルコト本件課税ハ折角日印支關稅協定ニ依リ好轉ニ向ヒツヽアル日印支間經濟協力ニ惡影響ヲ及ホスヘキコト等適宜御説明ノ上其ノ適用ヲ阻止スル様御配慮相成度シ

~~~~~

396 昭和8年4月11日 在仏國長岡大使より  
内田外務大臣宛(電報)

(三)六日館員ヲシテ外務省係官ヲ往訪セシメ先方調査ノ統計

困難ナルヘキモ兎ニ角研究スヘシト述ヘタリ  
澤田ハ葡萄牙、芬蘭、瑞典三國ニ對スル附加稅免除ノ事實ヲ指摘シタル處同局長ハ右ハ一定ノ代價ヲ得テ為替下落ノ差ヲ補填シ附加稅免除ヲ爲スト共ニ將來一定限度ヲ超エテ為替ノ下落アラハ再ヒ補償附加稅ヲ課スル事トナリ居ルモノナリト答ヘタリ澤田ハ佛大藏省ノ統計ニ基キテ作成セル客年一月以降本年一月ニ至ル日佛間輸出入額ノ月別表ヲ示シ日本ヨリ佛國ニ對シ輸入漸減セルニ反シ佛國ノ對日輸出ノ漸增シ居ル狀況ヲ指摘シ兩國間貿易ノ平衡ヲ計ル爲ニハ日本品ニ對スル各種輸入制限ヲ廢止若ハ緩和スル事ヲ要スル旨ヲ說キタルニ同局長ハ右數字ハ甚タ興味アル様思考スルヲ以テ關係省ノ注意ヲ促スヘント答ヘタリ尙澤田ハ我方トシテハ佛大藏省調査ノ結果ヲ知リ度ク且ツ我方ノ數字等ヲモ詳細説明シ度キ旨ヲ述ヘ双方係官ヲシテ互ニ聯絡セシムル事ニ打合セ來レル趣ナリ

(二)前記我方覺書ニ對シテハ五日附ヲ以テ當國外務省ヨリ各關係省ヲシテ研究セシメタル上結果回答スヘキ旨ノ「ノート」ヲ送付シ來レリ

ヲ求メシメタル處

爲替三十一年十一月（一二、五九）三十二年十二月（五、

三〇）差（七、二九）之ト（五、三〇）トヲ比較シ下落率

ヲ（一三七「パーセント」）トス

物價指數三十一年十一月（一四七）三十二年十二月（一七

八）物價騰貴率（三一二）爲替下落率ト物價騰貴率トノ開

キ（一〇六「パーセント」）ナルヲ以テ補償附加税ヲ（二

五「パーセント」）ニ止メタルハ恩惠ナリト言ヘル趣ニテ

館員ハ爲替下落率ノ計算方法ニ付疑義アル旨ヲ留保スルト

共ニ葡萄牙芬蘭瑞典ニ對スル本件免除ニ言及シ我國ハ即時

無條件ノ最惠國待遇ヲ主張シ得ル旨ヲ述ヘタルニ同係官ハ

佛國ノ解釋ハ之ニ異ル旨並ニ右三國ニ對シテハ特別ノ協定

ニ依リ一定ノ代償ヲ得テ補償稅ヲ免除シ居ル旨ヲ答ヘ若シ

日本カ右三國ノ如キ協定ヲ結ハント欲スルニ於テハ好意ヲ

以テ交渉ニ應スヘシト言ヘル趣ナリ

右爲替下落率ニ付テハ（一二、五九）ヲ（一〇〇）トシ現

在ノ爲替ハ（四三）ト計算シ今後ノ話合ニ當ラシムル積ナ

リ

エジプトにおける綿布および絹布に対する関

税引上げについて

アレキサンドリア 6月2日前発  
本 省 6月3日前着

第三三號

往電第二八號及第三二號ニ關シ

今回ノ改正ハ窮状ニアル國內工業者力内外ニ邦品安ノ聲高キヲ利用シ其壓迫緩和ノ爲經濟會議前ニ實行方當局ニ逼リタル結果ニテ首相ハ近來勢力ヲ失墜シ最近人氣恢復ノ爲各方面ニ思ヒ切ツタル利益ヲ與ヘツツアリ本件亦其現レナリ幸ヒ今迄ノ程度ナレハ一時障害アルモ市場ノ實際ニ見テ向後共邦品實需ニハ大体變化ナキ見込ナルモ本邦重要品ノ殆ト全部ニ對シ最モ利害關係多キ部分ヲ選ヒ急激ナル増率ヲナシ而モ猶豫期間ヲ與ヘサルハ當國從來ノ慣行トハ謂ヘ通常ヲ阻礙スルコト大ニテ關稅委任權ノ弊害ナリ總稅務司ノ話ニ依レハ邦品異常ノ安値カロ實ヲ與ヘタルモノニテ再ヒ繰返スコトナカルヘキ趣ナルモ當國ハ少數ノ資本家等ニ依

リ動カセラレ易キ國ニ付此儘看過スルハ我方將來ノ爲不得策ニ付此際帝國政府ノ御訓令ニ依リ嚴重當局ノ反省ヲ促ス様致度ク又秋迄巴里滯在中ノ「シドキー」首相及經濟會議列席ノ大藏次官ニ對シテハ我在佛英大使ヨリ適當ノ機會ニ然ルヘク御懇談仰キ得ハ效果大ナルヘシ尙「マンチエスター」ヨリモ抗議アリ我民間團体ニ於テモ當國關係筋ニ抗議の意思表示ヲナスハ相當必要ナリ但シ第三國ノ運動又ハ競爭品等ニ言及セサルヲ可ト認ム  
英、佛へ暗送セリ

398 昭和8年6月7日 在アレキサンドリア北田總領事宛  
(電報)  
内田外務大臣より  
エジプトにおける綿布および絹布關稅引上げ

に対し当局の反省を促すべき旨訓令

本省 6月7日後6時10分発

第一六號

貴電第三三号ニ閲シ

經濟會議開催ヲ控ヘタル際關稅引上ヲ為スハ國際協力ニ依リ不況ヲ打開セントスル精神ニ違反スルモノナル處殊ニ本

通一機密第三二四號

昭和八年七月十日

外務省内に通商審議會設置方請議について

外務大臣伯爵 内田 康哉

總理大臣子爵 斎藤 實殿

通商審議委員会設置ニ関シ請議ノ件

別紙趣旨ニ依リ外務省内ニ通商審議委員會ヲ設置致度右閣議決定相成様致度此段及請議候也

(別 紙)

通商審議委員會設置ニ關スル件

國際聯盟脫退後ニ於ケル帝國ノ外交方針ハ昭和八年三月二十七日ヲ以テ煥發セラレタル大詔ノ聖旨ヲ奉シ益々交誼ヲ各邦ニ敦フスルト共ニ大義ヲ内外ニ宣揚スルヲ以テ其主眼トスルニアル處近時ノ外交案件ハ事經濟ニ關スルモノ日ニ多キヲ加ヘ國交ノ輯睦、世界ノ和平何レモ其基礎ヲ經濟關係ノ調整ニ求ムル所頗ル多大ナルモノアルヲ以テ帝國ノ外交政策モ亦其重要ナル基調ノ一ヲ經濟ニ置クノ要アルハ言ヲ俟タサル所ナリ。

曩ニ帝國政府カ國際經濟會議ニ參加シ今ヤ各國ト協力シテ世界不況ノ克服經濟的鎖國傾向ノ打破ニ貢獻セントシツアル所以ノモノ又這般ノ考察ニ出ツト雖トモ帝國ノ經濟的

トシテ能ク其機能ヲ發揮シテ過ナカラシムル爲メニ行フヘキ施設ハ多々アルヘキモ其管掌スヘキ通商關係案件ノ範圍性質既往ニ比シ更ニ頗ル廣汎多岐ニ涉ルヘキ趨向ニ鑑ミ新ニ一諮問機關ヲ設ケ從來隨時必要ニ應シ協議シ來レル民間實業團体其他通商貿易ニ關シ學識經驗ヲ有スル者ノ中ヨリ適當ナル人士ヲ撰拔シ關係各廳諸官ト共ニ之ト一層密接ニシテ且規則的ナル接觸ヲ保持シ各種錯綜セル利害關係ノ検討及ヒ情報意見ノ交換ヲ行ヒ外交ノ經濟的基調ヲ講究スル上ニ於テ萬遺算ナキヲ期スルハ實ニ刻下ノ急務ナリト思考ス。依ツテ此際左記規程ニヨリ外務省内ニ通商審議委員會ヲ設置致度シ。

右閣議御決定ヲ乞フ。

## 通商審議委員會規程

第一條 通商貿易ニ關スル事項ヲ調查協議スル爲外務省ニ

通商審議委員會ヲ置ク

第二條 通商審議委員會ハ會長一人、副會長一人及委員若干人ヲ以テ之ヲ組織ス

第三條 會長ハ外務大臣ヲ以テ之ニ充ツ

副會長ハ外務次官ヲ以テ之ニ充ツ

委員ハ關係各廳高等官及通商貿易ニ關係アル事項ニツキ學識經驗アル者ノ中ヨリ外務大臣之ヲ命シ

又ハ囑託ス

第四條 第二條ニ掲クル委員ノ外會長ニ於テ臨時必要アリト認メタルトキハ臨時委員ヲ命シ又ハ囑託スルコトヲ得

第五條 通商審議委員會ニ幹事長一人、幹事若干人ヲ置ク幹事ハ關係各廳高等官ノ中ヨリ外務大臣之ヲ命シ又ハ囑託ス

幹事長ハ會長ノ指揮ヲ承ケ會務ヲ處理シ幹事ハ幹事長ヲ補佐シテ庶務ヲ整理ス

## 第六條 通商審議委員會ニ書記ヲ置ク

書記ハ外務省判任官中ヨリ外務大臣之ヲ命ス

書記ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

編注 本件請議につき斎藤内閣總理大臣は内田外務大臣に對し、七月十一日付同内閣總理大臣発同外務大臣宛

公信内閣外甲第五〇号により「通商審議委員會設置ニ關スル件請議ノ通」と指令している。

～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

400 昭和8年7月26日 在アルゼンチン山崎(次郎)公使より

アルゼンチンへの商務書記官配置および今後の  
の対同国我が方貿易増進策につき意見具申

本 省 7月27日前着  
ブエノス・アイレス 7月26日後発

最近本邦ヨリノ情報ニ依レハ海外各地ニ商務領事ヲ任命セラル御計畫アル趣ノ處右ハ極メテ事宜ニ適シタル御措置ト思考スル次第ナルカ此ノ際當館へ商務書記官配置ノ御詮

議ヲ重ネテ御配慮相煩シ度南米方面ニ於テ萬一當地ヲ後廻シトシテ他ニ商務領事ヲ御任命アリトスレハ右ハ各地住民ノ數並ニ質、商品ノ種類、購買能力等ニ顧ミ事ノ輕重ヲ觀別セサル机上ノ空案ニ過キサルヘシト思考ス

將又内地ヨリノ報道ニ依レハ輓近海外通商ノ趨勢ニ鑑ミ一般當業者ニ於テ當方面ニ注目スルモノ次第増加シツツア

ル様子ナルカ尙其ノ實情ニ通セサル者多キ力如ク例ヘハ大

阪邊ノ當業者團體力當地ニ代表者ヲ派遣シテ本邦商品ノ紹介賣込ヲ計畫セントスル如キ風聞アル處從來當地歐米諸

國ノ市場トシテ既ニ久シク其ノ壟斷スル所タリ就中英米獨等ノ商戰力茲數年間白熱的ニ行ハレツツアル際本邦商品ノ割込ヲ計畫スルモ其成功極メテ困難ナルヘキヲ疑ハス加之

亞國爲替管理ノ益々嚴密ヲ加ヘツツアル今日對亞貿易増進ノ方途ハ唯亞國ノ國策ヲ考量シテ之ヲ我商權擴張ニ利用ス

ル外無シト思考セラル即チ夙ニ御承知ノ通り亞國ハ自國產品ヲ購入スル國ヨリ購入スル方針ナルヲ以テ如何ニ本邦品力廉價ナリトモ本邦ニ於テ亞國產品ヲ購入セサル限り日亞通商ノ發展ハ期シ難シ本邦ニ於テ亞國羊毛冷凍肉等ノ購入採算可能ナル場合ニ於テハ我對亞貿易ノ增進ハ自然ニ達成

亞國爲替管理ノ益々嚴密ヲ加ヘツツアル今日對亞貿易増進ノ方途ハ唯亞國ノ國策ヲ考量シテ之ヲ我商權擴張ニ利用ス

ル外無シト思考セラル即チ夙ニ御承知ノ通り亞國ハ自國產品ヲ購入スル國ヨリ購入スル方針ナルヲ以テ如何ニ本邦品力廉價ナリトモ本邦ニ於テ亞國產品ヲ購入セサル限り日亞通商ノ發展ハ期シ難シ本邦ニ於テ亞國羊毛冷凍肉等ノ購入採算可能ナル場合ニ於テハ我對亞貿易ノ増進ハ自然ニ達成

シ得ヘキモノト思考セラルヲ以テ右ノ根本的計畫ヲ確立セスシテ徒ラニ從來ノ常套手段ヲ繰返シ當地邦商間ニ既ニ取扱ハレツツアル商品ノ見本等ヲ携帶スル旅商等ヲ派遣セラルモ夫ハ多大ノ效果ヲ收ムル所以ニ非スト思考セラルニ付政府當局ニ於テモ亦民間當業者ニ於テモ右事情徹底的ニ了解セラレ徒勞無キ様御配慮相成度シ

爲念婆心ヲ披瀝ス

401 昭和8年7月28日 在アレキサンドリア北田總領事より内田外務大臣宛(電報)

綿布および絹布関税引上げに対するエジプト

当局への嚴重抗議申入れについて

アレキサンドリア 7月28日後発  
本 省 7月29日前着

第四四號

貴電第一六號ノ件直ニ書面ニテ嚴重抗議スルト共ニ臨時總理兼大藏大臣、外務大臣、商工長官、總稅務司ト篤ト會談シタル處何レモ深ク反省ノ模様ニテ今後ハ日埃貿易ノ相互増進ニ努メ再ヒ斯ル事件ヲ繰返ササルヘキ意向ヲ表示セリ

402 昭和8年7月31日 在アレキサンドリア北田總領事より内田外務大臣宛  
連盟脱退後の委任統治地域における我が方経済平等権維持について

公機密第二二三號  
昭和八年七月三十一日  
(8月30日接受)

在アレキサンドリア  
總領事 北田 正元〔印〕

外務大臣伯爵 内田 康哉殿  
聯盟脱退後委任統治区域ニ於テ我方ノ經濟平等

権維持ニ關スル件

本件ニ關シテハ七月八日附公機密第一九一号拙信ヲ以テ報告申進シ置キタル処其後「シリア」ニ於ケル現在及過去ノ非聯盟諸國ニ对スル實際ノ取扱振取調方不取敢在「ベイルー」我名譽領事ニ依頼シ置キタルニ対シ早速同領事ヨリ別記ノ通り回報アリタルカ右ニ見ルモ「シリア」官憲ト伯刺西爾式協定ヲ試ムルハ我方ノ利益ニ非ルヘク曩ニモ申進シ置キタル如ク本件ハ之ヲ米国式ニ解決スルコト肝要ナリ「シリア」ニハ邦品ト直接競争ノ状態ニ在ル綿布及絹布ニ

付國產工業アリ彼等ノ利益ハ邦品ノ輸入抑圧ニアルハ云フヲ俟タサル処ナルカ「シリア」ハ其ノ地理的關係上古クヨリ内地商業通過貿易及之ニ関聯スル産業發達シ其ノ關係者ハ國內ニ大ナル勢力ヲ有シ小數ノ工場生産者ト對峙シ居リ彼等ノ利益ハ飽ク迄通商ノ自由ニアル次第ハ屢次ノ報告ニテ申進シタル通リナリ「パレスタイン」ニハ目下ノ處直接重要邦品トノ衝突ヲ見ルカ如キ國內工業ハ成立シ居ラサルモ英本國「マンチエスター」品ハ同地ニ於ケル日本品ノ當面ノ競爭相手ナルヲ以テ英國側ヨリ見レハ此矣ノ關係力事実上本件解決ノ鍵タルヘク今回ノ倫敦ニ於ケル日英棉業者會議ニ於テモ恐クハ將來ノ英委任統治國ニ関スル問題ハ議題ニ上ルヘキコト察セラル、処「シリア」「パレスタイン」ハ我貿易上將來益々重要ナル意義ヲ有スヘキニ鑑ミ當方ノ意見トシテハ元來委任統治地域殊ニA式ノモノハ屬領地トハ異リ特殊ノ性質ヲ有スル次第ニテモアリ又英國トノ本協定ハ直ニ「シリア」ニ対スル先例トモ相成ルヘキニラレント希望ニ堪ヘス「シリア」ニ於テハ今日迄統治ノ成績舉ラス佛官憲ノ經濟政策ハ人民ヲ窮乏ニ陥レタリトノ規定セリ

一、「シリア」ニ於ケル聯盟諸國其ノ臣民及貨物ニ對スル經濟的待遇ノ原則ハ一九二二年七月二十四日ノ「シリア」及「レバノン」ニ対スル佛蘭西國委任統治條項第十一條ニ依リ決定サレ絶對的平等ノ待遇保証實行セラル

一、「シリア」ノ現行關稅法規ハ聯盟國及土耳其、北米合衆國ヲ除ク他ノ非聯盟國ノ產品ニ對シテハ最高稅率ノ適用ヲ規定セリ

一、接壤國ニ對シテハ前記委任統治條項第十一條ニヨリ特別ノ關稅取極ヲ締結スルコトヲ許サレタル為メ「シリア」及「レバノン」ハ「パレスタイン」「トランスジヨルダニア」「イラーク」「ネヂド」土耳其及埃及ト各協約ヲ結ヘリ

一、北米合衆國ハ佛國ト締結シタル一九二四年四月四日ノ條約第二條ニヨリ非聯盟國タルニ不拘永久ニ同記第十一條ノ利益ヲ享有ス

一、土耳其ノ地位ハ其ノ聯盟加入前後ニヨリ何等變化ヲ來サス「シリア」同國間ノ特別協約存スルカ故ナリ但シ右協約ノ諸條項ハ實際ノ價值ハ渺シト云ヘリ

在英及在仏大使  
本信寫送付先  
記

非難高キニ反シ「パレスタイン」ニテハ英國ノ施設着々效ヲ奏シ築港鐵道道路其他ノ土木工事盛大ニテ奥地トノ連絡モ益々便利トナルヘク他方「ヒットラー」ノ猶太人排斥以来ハ富有ナル同人種ノ独逸等ヨリ帰来スル者頗ル多ク国内ハ繁榮ヲ統ケ同時ニ一般住民ノ對日感情ハ頗ル良好ニテ独逸品「ボイコット」ノ結果邦品ノ輸入ニ著目シ我商品ハ啻々綿布絹布ノミナラス他ノ廣範囲ニ亘リ進出中ナルヲ以テ万綿製品ニ闊スル「マンチエスター」トノ妥協ハ不可避ノ場合ニアリテモ右ハ可成外面ニ現レサル紳士協約ノ形式トナシ表面ハ最述ノ如キ根本解決ニ依ルヘキモノト信セラル若シ「パレスタイン」ノ問題ニシテ幸ヒ我方ノ有利ニ解決ヲ見ソカ「シリア」ハ「パレスタイン」トノ接壤地ニテ互ニ通商經濟上競爭ノ地位ニ立ツ関係上「シリア」モ自衛上我商品ヲ拒否又ハ制限スルヲ不得策トスルニ至ルヘキナリ右往電第四五號末段補足旁々報告申進ス

委員ト在「ペイルート」伯國領事ノ間ニ本年三月一日附公第六六号拙信報告ノ如キ書翰ヲ交換シタル結果同年二月廿七日附佛高級委員会L R 30号ノ公布アリ同國ハ三月一日ヨリ「シリア」ニ於テ聯盟國並ノ取扱ヲ受クルニ至レリ我名譽領事ノ説明ニ依レハ右取極ハ「シリア」側ニ有利ナル由ニテ伯國ノ「シリア」ニ対スル輸入品ハ殆ト珈琲ノミニテ其ノ價額モ「シリア」カ伯國ニ向ケ輸出スル絹物類ニ比シ小額ナリトノコトナリ  
一、日本カ今ヨリ一年數ヶ月後愈々聯盟ヨリ脱退スルニ至ル場合ニハ「シリア」ニテハ何等ノ予告ナク輸入邦品ニ對シ自動的ニ現行稅率ノ二倍ノ最高率ヲ賦課セラルヘシ名譽領事ノ意見ニテハ仍テ日本モ伯刺西爾ト同様ノ協定ヲ結フ外ナカルヘク同領事カ佛高級委員府經濟部方面ノ意見トシテ報スル處ニ依レハ日本「シリア」間ノ此種協定ハ固ヨリ不可能ニハ非ルモ日本ト「シリア」トノ貿易力殆ト片貿易ナルノ事實ハ右ニ對スル大ナル障害ヲ形成スヘク兩國ハ互ニ或種求償的形式ヲ發見スルニ努メサル可ラサルヘシトノコトナリ

(欄外記入)

脱退予告期間内ニ先ツ「イラク」ト通商取極ヲ締結スルカ又  
ハ一九三〇年英米條約類似ノ取極ヲ為シ(第二條及第七條)  
聯盟國ト同様ノ經濟平等權ヲ確保スルコト必要ナルヘキカ  
~~~~~

403 昭和八年10月6日 在伊国松島大使より
広田外務大臣宛

我が國がエチオピアにおいて広大な利権等を獲
得したとの伝聞に対する伊国紙の反響について
(接受日不明)

機密公第一五〇號

昭和八年十月六日

在伊特命全權大使 松島 肇
外務大臣 廣田 弘毅殿

「アビシニア」ニ對スル本邦ノ發展說ト伊太利ト

ノ關係ニ關スル件

九月下旬以來本邦カ「アビシニア」ニ於テ廣大ナル經濟利
權ヲ獲得シ且本邦移民ノ捌口ヲ同地ニ求メントスル協定日
本及「アビシニア」間ニ締結セラレントストノ報我方ヨリ
傳ハリ伊國各新聞ニ掲載セラレタルカ右報道ハ現在ニ於ケ

ル本邦商品ノ地中海方面及「アフリカ」地方ニ對スル進展
ノ事實ニ顧ミ伊國政治界及經濟界ニ對シ相當刺戟ヲ與ヘタ
ルモノノ如ク右ニ關シ九月二十八日週刊「アクション、コ
ロニアール」紙ハ左ノ如ク論評ヲ加ヘ居レリ
歐洲ニ於テ軍縮問題ニ長談義ヲ費シ獨逸合併乃至「ダニユーブ」問題等ノ議論ニ日ヲ空費スル時他大陸ノ強國ハ實際的利益ノ獲得ニ猛進シツツアリ日本ト「アビシニア」間ニ協定ニヨリ日本カ「アビシニア」ニ於テ經濟上ノ利權ノ獲得ノミナラス且移民地ノ開拓ヲ試ミントスルノ點ニ關シテハ今日之力是非ヲ判定スル時ニアラサルモ回顧スレハ歐洲大戰ニ際シ當時ノ國王「リツグジヤス」ハ獨逸竝其與國タル墺洪國ト密接ナル關係ヲ結ヒ其經濟的發展ヲ援助シ一九〇六年ノ三國協定當時國タル英佛伊ヲ排除セント試ミタルカ幸ニ「エチオピヤ」青年ノ蹶起ニ依リ國王代位シ事ナキヲ得タリ然ルニ今日ニ於テ獨逸ニ代リ有色人種タル日本來ルトセハ右ノ如キ危險ナル事態ハ再ヒ繰返サルルニ至ルヘシ抑々今日ノ「アビシニア」ハ聯盟加入ヲ許サレ其獨立保證セラレ又近接強國ノ援助ニヨリ文化向上セシノミナラス國內ノ治安維持ニ就テモ實際上ノ援助ヲ受ケ文明國トシテ排

斥スヘキ同國ノ奴隸制度ニ對シテモ此等強國ハ之ヲ寛大ニ看過シ居レルニ拘ラス吾大陸諸國ト政策ヲ異ニスル日本ニ

對シ感謝ニ值セサル利權ヲ與ヘントス勿論「アビシニア」ハ獨立國ナルヲ以テ他國ト如何ナル條約ヲモ締結スルノ自由ヲ有スルモ右ノ場合近接國ハ日本ト同一ノ利權ヲ要求シテ日本ト同一ノ立場ニ立ツヘク「アビシニア」國內反亂ノ如キアラハ日本カ其近接國ニ對シ採ルコトアルヘキヲ充分記憶處置ヲ「アビシニア」ニ對シ採ルコトアルヘキヲ充分記憶スルヲ要スヘシ云々

本件ニ關スル報道ハ佛國側ニ於テモ相當注意ヲ引キタルカ如ク九月三十日「タン」紙ノ如キモ又右論評ヲ「ローマ」通信トシテ掲載シ居レリ右御參考迄ニ報告申進ス

本信寫送附先 在英、佛各大使

在「ポートサイド」領事

~~~~~

通二機密合第一二七八號

昭和八年十一月貳日

特命全權大使 林 久治郎殿  
在伯國

外務大臣 廣田 弘毅

總領事 内山 岩太郎殿  
伯國棉花輸入ニ關スル件

南米方面ニ於ケル棉花調查方ニ就テハ曩ニ六月二十七日附

通二機密合第七四二號ヲ以テ申進ノ次第有之タル處客年伯國聯邦政府側珈琲宣傳代表タル「アントニオ・アスンソン」ト契約ノ上伯國珈琲ノ宣傳ニ當リツツアル當地全國珈琲宣傳部岩井尊人(三井物產ニ於テ當初全社食料品部ノ一部ノ事業トシテ右宣傳ニ當リツツアリタルモ目下獨立シテ前揭名称ノ下ニ全人之ヲ統率シツツアリ)ノ斡旋ニヨリ鐘紡ニ於テ伯國Prado社Ouro Copas及Espadaノ三種ノ棉花ニ就テ試驗ノ結果本邦紡績工場ノ使用ニ差支ヘ無キヲ確メタルガ右ハ試驗室ノ試驗ニ止マルヲ以テ正式ニ相當規模ノ試紡試織ヲ為スコトトシ之カ為メ伯國聖市取引所ヨリ右三品

404 昭和八年11月2日 在伊國松島大使より  
在ブラジル林大使  
在サン・パウロ内山(岩太郎)總領事宛  
我が方紡績工業原料確保および移民問題の前  
途に鑑みブラジル綿花輸入検討方訓令

ト全格ノモノ三百俵ヲ輸入スルコトトセリ（十一月上旬アリゾナ丸ニテ本邦着ノ筈）而シテ右ハ主トシテ前顯岩井尊人ト武藤山治ノ發意盡力ニ係リ在本邦伯國大使之ヲ援助シタルモノナリ即チ伯國棉花ノ如キ未タ本邦當業者ニ於テ経験少キモノニ就テハ誰人力犠牲ヲ負担シ本邦當業者一般ニ紹介スルノ要アリ此ノ見地ヨリシテ岩井盡力ノ結果伯國棉花ノ本邦輸入ニ至ル迄ノ面倒其ノ他手續等三井物産ニ於テ引受ケ輸入後ノ試紡試織ノ結果鐘紡ヨリ「コスト」其ノ他ヲ一般ニ紹介シ爾後若シ本邦一般紡績當業者ニ於テ引取希望無キ時ハ鐘紡ニテ引取ルコトトシ且伯國棉花有望ナル場合其ノ取引乱脈トナルハ面白カラサルニ付伯國側ノ「オツファーム」ハ何レモ在神戸伯國領事官ニ於テ取纏メテ三井（前顯岩井ヲ指称ス）ニ通報シ三井側ハ必ス右在神戸伯國領事官ニ「オツファーム」ヲ求メルコトトシ兩者共右以外ノ注文ヲ排除スルコトトシ以テ統制ヲ期スルコトニ手筈ヲ整ヘ右西班牙宣傳部ヲ本部トスル本件伯國棉花紹介部ヲ在本邦伯國大使命名ノ下ニ Brazilian-Japanese Cotton & Product Head Quarter ム呼フコトトセル趣ナリ尚前掲 Prado 社ヨリ三百俵ヲ買付ケントセルモ當初ノ値段ヨリ高値ヲ求

メラレタル為彼我兩者ノ商談不調ト為リ在本邦伯國大使ハ之ヲ甚タ遺憾トシ本國ニ電報ノ上聖市取引所長ヲシテ Prado 社品ト同格寧口夫以上ノ品ヲ前顧最初ノ申出値段ヲ標準トシテ本邦ニ送出スルニ至レル由ナリ本件ハ我紡績工業原料給源確保ノ見地ヨリスルモ將又我對伯移民問題ノ前途ヨリスルモ慎重攻究ヲ加フルノ要アリト思考セラル處差當リ本邦側ヨリノ注文等ハ何レモ前顧機関ヲ中心トスル方有利且妥當トスルヤニモ被存ニ付右成行通報旁々此段申進ス

追テ本件研究ノ参考ニ資シ度ニ付在伯本邦移民ニ対スル棉作獎勵ノ具体案、伯國當局ノ棉作獎勵ニ関スル意図乃至具体的見込及伯國棉花增產ノ為伯國側ニ於テ特ニ日本移民ノ為「コンセッショソ」附與乃至日本移民招致ノ意囑ノ有無等ニ關スル貴官ノ見込又ハ意見等詳細御答申相成度右申添フ尚本件ニ關シ岩井ヨリ提出ノ全人ト鐘紡トノ関係往復文書及在本邦伯國大使ヨリ入手ノ伯國棉花ニ関スル調書別紙省略ノ通添送ス

本信送付先 在伯大使、在聖總領事

昭和 8 年 11 月 7 日 在伊國松島大使より

405 昭和 8 年 11 月 7 日 広田外務大臣宛

我が国のエチオピアへの經濟發展説に關し詳  
細回報方稟請

付 記 十一月二十七日付広田外務大臣より在英國松

平大使、在仏國澤田臨時代理大使、在伊國松

島大使他宛公信通三機密合第一三六一号  
日恵社がエチオピアにおいて獲得したとされる利權の真相について

（12月5日接受）

昭和八年十一月七日

在伊

特命全權大使 松島 肇 [印]

外務大臣 廣田 弘毅殿

「エチオピア」ニ對スル本邦ノ發展説ト伊國關係

ニ関スル件

本件ニ關シテハ本年十月六日附公第機密第一五〇號拙信ヲ以テ一應報告致置キタル處右拙信中ニ引用セル「アクショソ・コロニアール」紙論評ニ對シ在「ローマ」「エチオピ

更ニ日本側ニ於テ「エチオピア」ニ農耕地ヲ獲得セルヲ難セラレタリ當館ニ於テハ右ニ關シ詳細ナル情報ヲ有セサルモ右ハ單ニ日本ニ止マラス他ノ歐洲列國モ等シク一定期間リ

ノ契約ニ依リ農耕地ヲ獲得シ居レリ特ニ珈琲ノ栽培ノ如キ

ハ白国人佛国人其他ニヨリ自由且廣汎ニ行ハレ居ル處當該耕作會社力資本ノ不足又ハ經營上ノ缺陷ニヨリ其耕作又ハ

栽培事業失敗スルトスルモ右ハ「エチオピア」政府ノ責任

ニアラス

更ニ日本人力時々商品ヲ輸入スル場合ニ於テ之ヲ購入シ土人ニ小賣シ居ルハ歐洲商人自身ニシテ右ノ結果日本商人ハ

「アヂスアベバ」ニ於テ多量ノ商品ヲ所持シ活動スルヲ要セサルノ事實ヲ指摘セサルヲ得ス從テ日本ト經濟上ノ關係

ヲ増進シ友好關係ヲ維持スヘカラストノ論旨ハ何等理由ナシ「エチオピア」政府ハ何人ニ對シテモ好惡ヲ加フルコト

ナク何國ニ對シテモ共ニ友好親善關係ヲ増進スルコトヲ期待スルモノナリ云々

本信写送附先  
「アレキサンドリア」、「ポートサイド」領事  
通三機密合第一三六一號

待スルモノナリ云々

（付記）  
在英、佛各大使、在「ポートサイド」領事

昭和八年十一月廿七日

外務大臣 廣田 弘毅

日恵社ノ「エチオピア」利權ニ關スル件

在長崎「エチオピア」經濟調查會日恵社代表北川孝力過般

「エチオピア」國政府ヨリ獲得セリト稱セラルル利權ニ付

テハ各地新聞中種々誇大ニ報道セル向謬ナカラサル處右眞相ニ付調査セル所大体左記ノ通ナルニ付右參考迄送付申進ス

本信宛先 英、佛、伊、白、獨、土、大使

國際會議事務局

「アレキサンドリア」、「ポートサイド」領事

一、日恵社代表北川孝力「エチオピア」政府ヨリ獲得セリ利權トシテ傳ヘラルルモノハ(一)五十萬「ヘクタール」ノ借地權(二)十五町歩ニ一家族ノ割ノ移民(三)棉花、珈琲其他ノ栽培及藥草ノ栽培獨占權ナルカ十月廿八日在「ポートサイド」原田領事代理力同地通過ノ「エ」國「ヘルイ」國務長官ニ確カメタル處ニ據レハ同長官ハ「北川申出ノ棉花、藥草ノ栽培及借地ニ關シテハ阿片ヲ除キ詳細ナル條

左記

406 昭和8年11月15日 在仏國澤田臨時代理大使より

阿片栽培ノ獨占權及六十五萬町歩ノ借地權ヲ既ニ獲得シタルカ如ク宣傳シ居ルニ非スマト察セラルル趣ナリ

キ利權ノ出願ヲ爲シ政府ノ意向大体判明セルヲ待チ恰モ

阿片栽培ノ獨占權及六十五萬町歩ノ借地權ヲ既ニ獲得シタルカ如ク宣傳シ居ルニ非スマト察セラルル趣ナリ

ノナク其組織ノ如キモ右調査隊ノ結果ニ依リ社團法人ト

爲ス豫定ナル由ニテ資金、信用等モ現在ノ處殆ト云フヘキモノ無キカ如シ

三、北川孝ハ長崎市ノ書籍商ニテ日恵社ノ發起人トシテ同社組織後調査代表トシテ客年「エ」國ニ渡航セル者ナルカ

同國奥地旅行中旅費ニ窮シ「エ」國皇帝ノ救恤ヲ受ケタ

ルコトアリ又「アヂスアベバ」ニ於テ資金ニ窮シ賣娼窟

ノについて

406 昭和8年11月15日 在仏國澤田臨時代理大使より

本省 11月16日前着

パリ 11月15日後発

國際絹業會議における我が方絹および人絹製

品等への輸入割当制度実施に関する決議採択

國際絹業會議ハ十三日、十四日ノ兩日行ハレタルカ會議ニ

第五二七號

於テ最干問題トナリタルハ日本品ノ歐洲市場ニ於ケル競争ニシテ十三日ニハ議決セス十四日結論ニ達シタル趣ナルカ其ノ間日本側「オブザーバー」タル辻氏ハ列席ヲ拒マレタ

ル爲事情判明セサルモ同氏力會議後日本ニ同情ヲ有スル者ヨリ聞キタル所ニ依レハ

(一)日本ヲシテ一九一九年華府労働條約ニ於ケル労働時間ノ制限ニ關スル條約ヲ採擇セシムルコト(全會一致ニテ決議)

(二)直接歐洲品ト競争スル日本產天然絹糸、人絹及其ノ交織品ノ製造品(即チ羽二重ト絹紬以外ノ品)ニ付テハ本國植民地及保護領ニ亘り過去三ヶ年(態々具體的ノ年ハ指示セサリン由)ノ平均ニ依リテ「コンタンジヤン」ヲ課

スルコト(伊國ハ棄權セリ)  
ナル二個ノ希望決議ヲ爲シタル由ニテ各國關係者ハ夫々自國ノ政府ニ之ヲ上申シテ機宜ノ措置ヲ請フ可キ趣ナリ

尙佛國絹業組合ハ「コンタンジヤン」決定ヲ過去五ヶ年ノ平均ニ依ル可キ旨決議シタル由ナリ

編注 当該個所は、十一月十六日發在仏國澤田臨時代理大

使より広田外務大臣宛電報第五三二号により、「日本產天然絹布及其ノ交織物並其ノ製造品」と訂正されている。

407 昭和8年11月17日 在仏國澤田臨時代理大使より 広田外務大臣宛(電報)

國際絹業會議における我が方絹および人絹製品等への輸入割当実施決議採択経緯について

パリ 11月17日後着 本省 11月18日後着

### 第五三五號

往電第五二七號ニ關シ

其ノ後會議ニ出席セル佛國輸入業者代表ノ一人ニ就キ詳細討議ノ模様ヲ聽キタル處第一日ハ豫期ニ反シ日本品ニ對シ「コンタンジヤン」ヲ設定スヘシト云フ原案ニ對シ貿易制限ヲ不可ナリトスル原則論「コンタンジヤン」以外ノ制度ヲ可トスル方法論出テ議論紛糾シテ決セス第二日ニ至リ米國代表 Gerli 氏ハ本會議ニ於テ各國聯合シテ日本ニ當ル力如キ決議ヲ爲スハ好マシカラス寧ロ各國關係者側ヨリ直接

### 我が方絹および人絹製品の輸入制限阻止方訓令

本省 11月21日後8時20分発

### 第二六七號

貴電第五二七號ニ關シ

(一)我カ絹及人絹織物ノ海外進出ハ円為替ノ軟調ト我工業ノ機械的並ニ技術的進歩ノ結果ニ基クモノニシテ労働時間ノ関係ニ起因スルモノニアラス殊ニ歐洲ニ於ケル主要輸入國タル英國及佛國ニ輸入セラルゝモノハ主トシテ原料品ニテ国内製品ノ材料トナリ又ハ加工ノ上再輸出セラルゝモノナルヲ以テ我カ絹織物ハ両國產業助成ノ效果コソアレ何等脅威ヲ與フルモノニアラスト思考セラルゝニ付我製品ノ輸入ヲ制限スヘキ理由ナキニ拘ラス其ノ輸入ヲ制限セントスル力如キハ我カ工業ニ対スル認識ヲ誤リ且國際上公正ナル輿論ト看做スヲ得ス就テハ貴任國ニ於テ本件運動ノ具体化セラルル虞アル場合ハ右ノ次第モ御參酌ノ上可然阻止方御配慮アリ度ク尚會議ニ於テ何レノ國カ邦品輸入制限ニ賛成シタリシヤ取調電報アリ度シ

(二)本邦ニ於ケル絹及人絹織物工業ハ小規模ノモノ多ク勞働時間モ区々ナルモ大工場ニ依ル絹糸紡績及織物工業ノ勞働

時間ハ左ノ通

(イ)二交替制度ニ依ルトキハ

前班ハ午前五時ヨリ午後二時迄九時間（内三十分休憩）  
後班ハ午後二時ヨリ十一時迄九時間（内三十分休憩）

何レモ正味八時間半

(ロ)片番制度ニヨルトキハ一日八時間一週四十八時間トナル

英ニ轉電アリ度シ

~~~~~

409 昭和8年12月2日 在仏國澤田臨時代理大使より
広田外務大臣宛（電報）

仏國政府における絹および人絹製品への輸入

割当実施意向について

パリ 12月2日後発
本省 12月3日前着貴電第二六七號ニ關シ
第五六四號佛國政府ハ絹布類「コンタンジヤン」設定ニ付具体的研究
ヲ始メタル趣聞込ミタルヲ以テ二十九日館員ヲシテ商工省
係官ニ就キ様子ヲ探ラシメタル處佛國政府ハ主義トシテ絹依テ三十日「ド」ヲ召致シ様子ヲ聞キタル處未タ正式ノ命
令ハ無キモ極最近商工省側ヨリ本件「コンタンジヤン」設
定ノ話ヲ聞キタルヲ以テ如何ニセハ有利ニ解決シ得ルヤ研
究中ニテ第一ニ基礎ノ年度トシテ一九三〇年（七、五八三
「キンタル」）三一年（九、〇一五）三二年（二三、一三
二）ノ平均量採用方ヲ提案スヘク又往信公第四一一號其ノ
他ヲ以テ申進メタル本邦ニ於ケル本件商品取扱商ノ組合ハ
成立困難ノ趣ニ付巴里ニ於ケル取扱商組合ニテ割當ヲ爲ス
外無シト考ヘ居ル旨並一月一日以前ノ積出ニハ例外トシテ
自由輸入ヲ認メシムルコト及本件「コンタンジヤン」制度
受諾ノ代價トシテ出來得レハ綿製品ニテ「コンタンジヤン」
超過ノ爲保稅倉庫ニ在ル日本品ヲ一時倉拂的ニ特別輸入ヲ爲サシムル様當局ニモ交渉スル考ニテ來ル十二月七日巴里
組合ノ總會ヲ開クヘキ豫定ナル旨内話セリ就テハ本件ニ付當方ニ於テ「ド」指導上注意スヘキコトア
ラハ七日迄ニ御電示ヲ得ル様致度シ

尙貴電第二六七號ヲ以テ御訓令ノ點ハ篤ト右係官ニモ申入

レシメタルカ同係官ハ佛國政府ハ國際絹業會議ノ希望決議
中勞働時間ノ件等ハ問題ニシ居ラサルモ日本産業ノ組織及運用巧妙ヲ極メ良品ヲ甚シキ安値ニテ輸出スルカ故ニ佛國
ノ輸入業者力爭ヒテ日本品ヲ輸入スルハ自然ノ理ニシテ其ノ内佛國工業ノ原料タル織布類ハ除クモ今回「コンタンジ
ヤン」ノ目的物トナルヘキ製造品ノ競争ノ爲佛國製造業者ハ倒産ニ至ラントシツアリ依テ本件日本品ヲ無制限ニ入
ルルハ自國工業ヲ壊滅セシムル所以ナルヲ以テ「コンタン
ジヤン」設定方考慮セサルヲ得サルニ至レルモノナリト説明シ日本品力驚クヘキ安値ヲ以テ歐洲及其ノ植民地ニ進出
シ歐洲工業ニ脅威ヲ及ホスニ至レル爲問題ハ最早「ダンピ
ング」其ノ他商業的技術的範圍ヲ超エ日本ノ進出ニ對スル

歐洲ノ共同防衛ナル政治問題トナルヘキ傾向アル旨ヲ述ヘ

タル趣ナリ

及人絹ノ製品（即チ織物ヲ含マス尤モ所謂vêtements
confectionnés 及リハ範圍廣ク絹手巾ノ如キ加工品全部ヲ
含ム）ニ對シ「コンタンジヤン」設定ヲ決定シ來年一月一
日ヨリ實施スヘク日本品ノ「コンタンジヤン」算定ノ基礎
數量其ノ他輸入手續問題ハ「ドショー」ヲシテ里昂其ノ他
ノ製造業者ト日佛輸入業者トノ間ニ談合ヲ付ケシムルコト
トナシタル趣ヲ内話シタル由ナリ依テ三十日「ド」ヲ召致シ様子ヲ聞キタル處未タ正式ノ命
令ハ無キモ極最近商工省側ヨリ本件「コンタンジヤン」設
定ノ話ヲ聞キタルヲ以テ如何ニセハ有利ニ解決シ得ルヤ研
究中ニテ第一ニ基礎ノ年度トシテ一九三〇年（七、五八三
「キンタル」）三一年（九、〇一五）三二年（二三、一三
二）ノ平均量採用方ヲ提案スヘク又往信公第四一一號其ノ
他ヲ以テ申進メタル本邦ニ於ケル本件商品取扱商ノ組合ハ
成立困難ノ趣ニ付巴里ニ於ケル取扱商組合ニテ割當ヲ爲ス
外無シト考ヘ居ル旨並一月一日以前ノ積出ニハ例外トシテ
自由輸入ヲ認メシムルコト及本件「コンタンジヤン」制度
受諾ノ代價トシテ出來得レハ綿製品ニテ「コンタンジヤン」
超過ノ爲保稅倉庫ニ在ル日本品ヲ一時倉拂的ニ特別輸入ヲ

合第二一二七號

最近本邦品ノ海外進出顯著ナル結果著シク諸外國ノ神經ヲ
刺激シ関稅引上「コンタンジヤン」其ノ他各種ノ邦品輸入
阻止手段ハ勿論拔打ニ通商條約廢棄ヲ敢テ爲スモノアル情
勢ナルノミナラス最近歐洲各國ハ本邦品進出防止ノ共同戰
線ヲ張ラントシツハアルヤノ形勢サヘ觀取セラルヽ處右ハ
事經濟ノ問題ニ止ラス其帝國ノ國際的地位ニ及ホス影響頗
ル重大ナルモノアルヘキヲ以テ帝國政府ニ於テハ夙ニ這般
ノ大勢ニ鑑ミ輸出統制ノ強化、關稅制度ノ改正、物資交換
乃至關稅率ニ依ル互惠協定ノ締結等ニ依ル対策ノ實現ノ爲

努力シ來レル次第ナルカ各省事務分掌関係、必要法規ノ缺陥、一部商品ノ生産及輸出機構ヨリ來ル事實上ノ困難當業者ノ無自覺等ヨリ來ル幾多ノ障害アリ対策樹立ニ遺憾ノ吳少カラサリシカ不斷ノ努力ヲ續ケ來レル結果各方面トモ次第覺醒シ來リ曩ニ外務省ニ於テ組織セル官民合ノ通商審議委員会モ其ノ必要ヲ認メ來リツ、アルノミナラズ商工省ニ於テハ輸出組合法工業組合法等關係法令ヲ改正シ必要ニ應ジ組合ヲ強制的ニ組織セシメ關係當業者ノ總テニ組合ノ規定ヲ強行シ得ルコトスル外特定物品ノ輸出入ヲ禁止制限シ得ル途ヲ開カントシ既ニ右法律ノ改正ナキ今日ニ於

テモ當業者ヲ指導説得シ最近對蘭領印度「セメント」及「ビール」ノ輸出組合、対米鮪罐詰共同販賣會社、日本電球工業組合聯合會等ヲ設立シ尚対印度綿布輸出ニ關シテモ強固ナル機關設立方努力中大藏省ニ於テハ無條約關係ノ防止ノ為複稅制度採用方審議中ニテ夫々着々研究ノ進捗ヲ見ツ、アリ（尤モ大藏省ニテハ複關稅制度採用ニ躊躇ノ風ナキニ非ズ）外務省トシテハ常ニ諸外國ニ於ケル情勢ヲ説

明シ極力關係省ト協力シ少クトモ近ク開会セラルベキ議會ニ於テ必要ナル法律ノ改正ヲ實現セシメンコトヲ期シ折角努力中ニシテ殊ニ最近各國共同戰線結成ノ形勢ニ關シテハ五月本大臣ヨリ閣議ニモ報告シ置キタリ

本邦ハ最近顯著ナル輸出ノ發展ヲ見ツ、アリト雖モ依然輸入超過國ナルヲ以テ（本年一月ヨリ十月迄輸出一、五二五、一三六、九〇二圓輸入一、五六二、八七五、七三三圓）前記互惠協定ノ締結ニ依リ相當廣キ範囲ノ國ニ對シ相互依存ノ關係ヲ確立シ健實ナル經濟的發展ヲ計リ得ル次第ナリト思考ス

就テハ右共同戰線結成ノ形勢ニ關シ何等御心付ノ吳殊ニ対策促進上關係省、當業者等説得ニ必要ナル材料ハ此上トモ至急御報告相成度一方貴任國政府及民間ニ對シ上述帝國政府ノ態度ヲ徹底セシムル様極力御措置相成度シ

普通情報通り轉電アリ度シ

（佛ヘノミ）英ヘハ直接電報済

2 米国經濟復興政策と日米貿易問題

411 昭和8年1月23日

在米国井上（豊次）大使館商務書記官
代理より
内田外務大臣宛（電報）

米国における日本品廉売問題の根本的対策として

我が方當業者の統制を急務とすべき旨意見具申

ニユ一・ヨーク 1月23日後発
本 省 1月24日後着

第四號

昨年來圓爲替下落ニ伴ヒ本邦雜貨ノ米國輸入増加スルト共ニ本邦當業者間ノ競争モ相當烈シク往々法外ナル安賣ヲ爲スモノアリ此ノ際徒ニ國益ヲ空シクスルノミナラス米國製造家ノ怨ヲ買ヒ不當廉賣法ノ適用、關稅引上、爲替下落（脱？）ノ運動補償附加稅徵收案並「バイ、アメリカン」ヲ誘致シツツアルニ對シ根本的對策トシテ本邦當業者ノ統制ヲ急務トシ既ニ本邦ニ於テ輸出組合等ノ組織ニ依リ輸出價格漸騰シツツアルハ喜ハシキ事ナルモ此ノ際更ニ貿易ノ永久的發展ヲ期スル爲本邦組合ハ販賣市場ト密接ナル聯絡ヲ保チ殊ニ輸出價格決定ニハ輸出先市場ニ於ケル競爭品ノ

表ノ場合ニハ然ルヘク注意ヲ要ス右爲念

相場及販賣狀況ヲ常ニ考慮シ（實）際的ナル措置ヲ執ル事緊要ナルヤニ思考セラル處陶磁器ニ於テハ工業組合及輸出組合完成セラレタル由ニテ最近大日本陶磁器輸出組合飯野理事長ノ來紐セルヲ期トシ當地本邦雜貨輸入商ハ右ノ趣旨ニ依リ内外協調ノ實ヲ擧クル目的ヲ以テ屢々協議ヲ重ね其ノ間ニ在米大使館ヨリ水澤書記官ノ臨席ヲモ請ヒ本官亦列席ノ上遂ニ一月二十日紐育雜貨輸入商組合ノ組織ヲ確立スルト共ニ今後大日本陶磁器輸出組合ト協力シ差當リ對米輸出陶磁器標準物八種ニ付適當ナル當地販賣價格ヲ基礎トシ弗建ヲ以テ本邦輸出價格ヲ協定スル事ヲ決議シ其ノ實現方ニ付輸出組合ヘノ提議等具体的交渉ヲ飯野ニ一任セリ右ハ本邦陶磁器輸出ノ將來ノ爲甚夕時宜ヲ得タル措置ナリト存セラルルノミナラス之力成功ノ曉ニハ他ノ本邦輸出品ニモ範ヲ示スヘキニ付右ニ對シ本邦組合ヲ然ル可ク御指導方御配慮ヲ請フ尙右價格協定ノ儀ハ「アンチトラスト」法ニ抵觸ノ惧アルニ付單ニ當地市況報告ノ形ト成ス事トシ公表ノ場合ニハ然ルヘク注意ヲ要ス右爲念